

## Journal of Occupational Science (2023) 第30巻 1号

2023年発行のJOS 30巻1号は、カナダ、アメリカ合衆国、イギリスの3国から投稿された作業の場所に関する9つの論文を掲載している。これらは、場所と文脈における構築的、自然的、社会的、文化的、社会全体に関する、時間的、歴史的の各側面に関わる内容である。編集者のHand(2023)は、場所は日常生活の作業の基本的な要素であり、近年作業科学者が挑戦してきた場所の感覚と作業従事をテーマにしたtransactionalな視点が大きく発展してきたと述べている。本書評では、作業を通して、人々は文脈の中で、過去、現在、未来の時間を超えて未来に向かっていく可能性について理解を深めるのを助けてくれる論文を3編紹介する。

Hart(2023)は、イギリスにおける難民の経験を現象学的に研究し、亡命が重大な作業的混乱を引き起こす可能性があること、さらに、そこで起こる個人史の崩壊から回復するために意味のある作業に従事することを熱望することを指摘し、これを読むことで、作業は人生が崩壊した移民たちが未来を描けるように手助けするという可能性を示す。

Sethi(2023)は、transactionalな視点と時間的浸透性の観点から、母親の作業への社会歴史的影響を考察している。インタビューを使って、子育てで必要な調整過程の意思決定プロセスを調査した。母親の過去の経験、現在の状況、将来への思いが母親の作業を形成していることを指摘した。多様な状況に対する母親の特定の態度や行動は、過去の歴史的な文脈への反応として理解できることが示唆された。子育てとしての作業は母親の経験を含め、より全体的に理解することの必要性が重要視される。

Handら(2023)は、人の作業従事は複雑であり、容易に説明することが困難なありふれた行為を多く含むと述べた。さらに、課題解決のために観察とインタビューのハイブリットであるゴー・アロング法を作業のレンズと併用することが、作業をより深く理解する有用なツールであると主張している。

本号に掲載された論文を通して、人が人生の過程でどのような経験をしているのかを理解し、支援に繋げていくためにどのような手段を用いていくのか考える示唆を大いに得た。これらは我々が対象者と向き合うときに必ず活用できる知識となるため、ぜひ多くの方に目を通して頂きたい。

馬場 博規(磐田市立総合病院)

小田 原悦子(フリーランス)

### 文献(引用順)

Hart, H. C. (2023). Imagined futures: Occupation as a means of repair following biographical disruption in the lives of refugees. *Journal of Occupational Science*, 30(1), 24-36.

Sethi, C. (2023). Temporal permeability: Socio-historical influences on mothering occupations. *Journal of Occupational Science*. 30(1), 65-80.

Hand, C., Stewart, K., Rudman, D. L., McGrath, C., McFarland, J., & Gilliland, J. (2023). Applying the go-along method to enhance understandings of occupation in context. *Journal of Occupational Science*. 30(1), 127-140.

## Journal of Occupational Science (2023) 第30巻 2号

編集者Hocking(2023)によると、本号は、作業バランス・人間の作業の経験・移行の3つの作業科学の関心事に関する13の論文からなる。まずは、作業バランスをテーマにした5論文が紹介される。Liuら(2023)は、作業バランスがあまり注目されてこなかった東洋社会における、伝統的な人間複雑系理論に基づいて作業的調和モデルを提唱する。作業的調和の概念は、調和のとれた人と環境のトランザクションを現象の本質として重要視し、活動パターン、時間の使い方、作業の特性、ニーズの充足、生体リズムなど、これまでの作業バランスに関する文献に見られる複数の視点を統合したものである。Perreault(2023)らは、個人レベルの役割間対立の交渉・解決へのワークライフバランスの影響の調査を通し、作業バランスの作業科学における可能性を示唆する。Leeら(2023)は、高齢者の作業バランスとウェルビーイングについて調査し、高活動でバランスの取れた作業状態にあることが高いウェルビーイングと関連があることを明らかにする。対してAsbjørnslettら(2023)は、対象を個人に絞り作業混乱と作業不均衡の例を報告する。パンデミック中に、学生が日常生活の中で経験した作業混乱の例を示すとともに、作業混乱に関連した作業放棄を紹介し、作業バランスを維持し、作業混乱後にモチベーションを再獲得するために必要な生産的な場所の意味について考察する。作業バランスの最後の論文は、Håkanssonら(2023)の研究である。うつ患者における調査を通して、作業バランス(バランスが取れていること、作業の量がちょうどよいこと、休息に費やした時間の満足が高いこと)と日常生活の満足度との関連を提示する。

次に、人間の作業の経験に関する4論文が続く。Turcotteら(2023)は、健康促進プログラムに関与する人の役割に着目し大人の経験を示す。参加者らは、プログラムでのファシリテーターとしての役割を通して、自分のアイデンティティを表現し、能力を伸ばし、喜びを体験し、社会に貢献していた。Barlottら(2023)は、学習障害者が仕事への参加を通して何を得ているか調査した。参加者は、情報伝達技術を自分の一部として用いることで、読み書きの能力や学習、他者とのつながりを経験していた。Bodenら(2023)は、ホームレス女性の月経衛生管理の経験を調査した。参加者は、月経衛生管理に困難さを経験するとともに、幅広い作業参加への影響を提示する。最後に、Larivièreら(2023)は人間の作業経験をより哲学的なレベルで考察し、作業を通して経験する豊富な意味を振り返らせ、作業の混乱を感じさせるハイデッカーの概念、現存在を再考する。

本号の最後は、移行に着目した4論文である。Marxら(2023)は学習障害者とその両親が時間と共に経験する移行を調査し、青年期の視点と発達上のニーズの理解、作業上のニーズ(生産性、喜び、回復)、将来への準備をテーマとして明らかにした。Martinら(2023)は、がん患者の生存への移行を探求した。この研究では、これまで作業科学で報告されてこなかった「歓迎されざる何かになること」というテーマが浮かび上がった。Lukasら(2023)は、同性愛者の移行を調査し、アイデンティティと作業参加が本質的に相互に影響しあうものであることを示す。最後に、Lavalleyら(2023)は米国でサービスを受けるスペイン語を話す高齢者の適応過程を職員と共同で経験する移行として紹介する。

高木 信也(絃仁病院)

### 文献(引用順)

- Liu, Y., Zemke, R., Liang, L., & Gray, J. M. (2023). Occupational harmony: Embracing the complexity of occupational balance. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 145–159.
- Perreault, M., & Power, N. (2023). Work-life balance as a personal responsibility: The impact on strategies for coping with interrole conflict. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 160–174.
- Lee, C. D., Kim, M. Y., Lee, M. J., Kang, J., & Foster, E. R. (2023). The relationship between active, balanced

- participation and well-being in older adults in the United States: A time-use perspective. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 175–183.
- Asbjørnslett, M., Berg, S. R., Einarsdottir, V., & Skarpaas, L. S. (2023). Stranded in the living room: A narrative study of occupational disruption and imbalance as experienced by two Norwegian students during the COVID-19 pandemic lockdown. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 184–195.
- Håkansson, C., Gunnarsson, A. B., & Wagman, P. (2023). Occupational balance and satisfaction with daily occupations in persons with depression or anxiety disorders. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 196–202.
- Turcotte, S., DeBroux-Leduc, R., Aubry, C. V., Parisien, M., Levasseur, M., Daigle-Landry, D., ... Filiatrault, J. (2023). Older adults' experience as peer educators in health promotion programs. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 203–217.
- Barlott, T., MacKenzie, P., Goullon, D. L., Campbell, L., & Setchell, J. (2023). A transactional perspective on the everyday use of technology by people with learning disabilities. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 218–234.
- Boden, L., Wolski, A., Rubin, A. S., Oliveira, L. P., & Tyminski, Q. P. (2023). Exploring the barriers and facilitators to menstrual hygiene management for women experiencing homelessness. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 235–250.
- Larivière, N., & Quintin, J. (2023). Heidegger and human occupation: An existential perspective. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 251–261.
- Marx, L., Franzsen, D., & van Niekerk, M. (2023). Current and future occupational performance priorities of adolescents with learning difficulties and their parents. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 262–276.
- Martin, E., Hocking, C., & Sandham, M. (2023). Doing, being, becoming, and belonging: Experiences transitioning from bowel cancer patient to survivor. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 277–290.
- Lukas, M., Forsyth, L., Bunting, K. L., & Forwell, S. (2023). “This is me”: The transition of coming-out for gay men through an occupational perspective. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 291–303.
- Lavalley, R., Womack, J. L., & Bailliard, A. (2023). A live community growing together: Communal occupation of a senior center welcoming Spanish-speaking elders. *Journal of Occupational Science*, 30(2), 304–316.

## Journal of Occupational Science (2023) 第30巻 3号

JOS30巻3号は題をChallenging boundaries within occupational science: A pluriverse agenda for our scholarshipとし、学問領域としての作業科学の境界を批判的・多元的に見直すための特別号となっている。Larson とMagalhãesは本号の書評で、近年作業科学分野に批判的視点を用いた実践や研究が増加傾向にある一方で、メディアや従来の方法に基づいた研究、学会などから情報を得ているうちに自身の偏見に気付かず、不公正を助長しかねないことを指摘している。本号は作業科学の初学者と上級研究者が共に批判的な視点を用いて、無意識的に「常識」で構築される偏見や仮定を見直すことを提唱している。

まず、WijekoonとPeter (2023)はJournal of Occupational Scienceに掲載された5年分の論文を批判的に分析した結果から、著者の立場表明や研究参加者の人種や民族に対する配慮や考察が不十分であることを指摘している。社会変革は植民地化の歴史の中で作られた社会構造を批判的に見直し、人々が共に変化をもたらすための運動を起こし、何らかの活動を行うことから始まる。Lévesqueら(2023)はカナダの先住民族と先住民族ではない研究者が先住民族の視点で従来の保健および社会の仕組みを見直す過程を紹介し、Müllenmeisterら(2023)は社会変革に挑む活動家の生活に焦点を当て、必ずしもいいことばかりではない作業の政治的側面について書いている。また、Ramirezら(2023)はフィリピンの伝統的なタトゥ文化の実践と継承は、植民地化に対する抵抗を表す作業であることを示した。その他さまざまな国から、子どもから高齢者まで、当事者の作業経験を当事者の声を中心に描いた論文は、Zogogianniら(2023)のギリシャの子どもたちのコロナ禍での作業経験、Engelbrechtら(2023)の南アフリカの知的障がい者の若者の就労支援、Cahillら(2023)のアイルランドの女性大学教員が退職する過程に関するものである。また、レビューなどの形で過去の研究を分析したり統合解釈したりすることで、定年退職後に働き続ける人の動機(Bratunら, 2023)、認知症高齢者を社会市民としての権利遂行を支援または抑圧する要因の分析(Peoplesら, 2023)、家族介護者の作業に関する研究の分析(Reidら, 2023)などが掲載されている。また、Khanguraら(2023)はカナダの移民関連のサービス提供者を対象としたインタビューの二次分析を通してカナダの移民を支援する上での政策のあり方に疑問を投げかけ、Delaisse & Huot (2023)は移民が祖国との繋がりを作業を通して保つ姿をトランスナショナリズムを通して捉えることで従来の統合や同化主義的なアプローチに抵抗することができると提唱している。

川端 佐代子 (University of North Carolina at Chapel Hill)

### 文献(引用順)

- Larson, E., & Magalhães, L. (2023). Special Issue: Challenging boundaries within occupational science: A pluriverse agenda for our scholarship. *Journal of Occupational Science*, 30(3), 317–321.
- Wijekoon, S., & Peter, N. (2022). Examining racial, ethnic, and cultural diversity in occupational science research: Perspectives of persons of color. *Journal of Occupational Science*, 30(3), 322–341.
- Lévesque, M. C., Kutcher, A., Roy, L., Linton, P., Trapper, L., Torrie, J. E., & MacDonald, M. E. (2022). Occupational transaction in support of miyupimaatisiin (wellness): Eeyou/Eenou community voices. *Journal of Occupational Science*, 30(3), 342–362.
- Müllenmeister, C., Maersk, J. L., & Farias, L. (2023). Exploring doing activism as a means for political action and social transformation in Germany. *Journal of Occupational Science*, 30(3), 377–389.
- Ramirez, C., McCarthy, K., Cabalquinto, A., Dizon, C., & Santiago, M. (2023). Batok: The exploration of Indigenous Filipino tattooing as a resistive collective occupation. *Journal of Occupational Science*, 30(3), 363–

376.

- Zogogianni, S., Whiteford, G., & Siaperas, P. (2023). Understanding disruptions to children's patterns of occupation and forms of occupational engagement during COVID-19 in Greece: An exploratory study. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 390–402.
- Engelbrecht, M., van Niekerk, L., & Shaw, L. (2023). Supported employment for youth with intellectual disability: Promoting occupational justice. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 403–419.
- Cahill, M., Galvin, R., & Pettigrew, J. (2023). Becoming an academic retiree: A longitudinal study of women academics' transition to retirement experiences from a university in the Republic of Ireland. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 438–452.
- Bratun, U., Asaba, E., & Zurc, J. (2023). Motives of retirement-aged workers and the importance of doing, being, becoming, and belonging: A systematic review of qualitative studies. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 420–437.
- Peoples, H., Varming, J., & Kristensen, H. K. (2023). Social citizenship when living with dementia: A qualitative meta-study. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 453–471.
- Reid, H. A., Holmes, J. D., Laliberte Rudman, D., & Johnson, A. M. (2023). Representing informal care-givers of older adults in occupation-focused research: A critical interpretive synthesis. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 472–486.
- Khangura, S., So, M., Yekta, A. R., & Huot, S. (2023). Catalyzing service providers' potential to enhance immigrants' social occupational possibilities. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 487–502.
- Delaisse, A. C., & Huot, S. (2023). Embracing transnational approaches for a more thorough and critical understanding of occupation in research on migration. *Journal of Occupational Science, 30(3)*, 503–518.

## Journal of Occupational Science (2023) 第30巻 4号

Journal of Occupational Science 第30巻第4号には、幅広いテーマを扱った研究が収められている。論文を一つひとつ読んでいくと、作業科学が今どのような課題に向き合っているのかが浮かび上がってくる。本号の大きな特徴は、ナラティブ解釈や社会的連帯に関する理論的議論に加え、喫煙や宗教的実践のように、これまで必ずしも肯定的に扱われてこなかった領域にまで目を向けている点であると感じられた。

まず、Ruth Zemke 講演である Josephsson (2023) の論考では、作業科学におけるいくつかの緊張関係、すなわち個人と社会の視点、要素的分析と過程的理解、成功と脆弱性といった対立に注目している。そして Ricoeur (1992/Josephsson, 2023による引用) のナラティブ解釈を手がかりに、「何を」から「どのように」へと視点を移す可能性を提示した。作業を成果としてのみ捉えるのではなく、変化と主体性を生み出す過程として理解する意義が改めて強調されたと言える。続く Whiteford (2023a) の論文では、作業科学と作業療法の認識論的發展が両分野の関係を深め、社会における作業的課題を表明する力を高めたことが示されている。学問と実践の往還によって、分野が社会的な存在感を強めてきたことがよく伝わってきた。

実証的な研究も多彩である。たとえば COPD 患者が喫煙を続ける意味を探った研究では、健康に害を及ぼす行為であっても日常のリズムや自己感覚を支える「意味ある作業」として経験されていたことが報告されている (Whiteford, 2023b)。この結果は、作業を「健康的で生産的な営み」に限定してしまわない視点の重要性を改めて示している。また、自閉症の行動を「逸脱」や「悪い行動」とみなす枠組みを批判し、包摂的な理解の再構築を訴えた論文 (Taylor, 2023) も印象に残った。そのほかにも、待つこと (de Jongh & Martin, 2023)、睡眠 (van der Veen et al., 2023)、日常生活における美的経験 (Karen & Evetts, 2023)、刺繍 (von Kürthy et al., 2023) といった領域を「作業」として捉え直す試みが見られ、作業科学の対象領域が一層広がっていることがわかる。さらに、胎児性アルコール・スペクトラム症候群をもつ子どもの作業参加を母親が共同作業を通して支える実践を描いた研究 (Drotsky et al., 2023) も収録されており、作業が家族や関係性の中でいかに育まれるかが浮き彫りにされている。

方法論の点でも、解釈的現象学分析 (IPA)、記述現象学、ナラティブ・インクワイアリー、質的記述研究など、多様なアプローチが活用されていた。それぞれの方法論が異なる角度から作業を照らし出しており、分野の厚みと広がりを実感させる。学際的な展開が進むことで、実践や社会への応用可能性もさらに豊かになるだろう。

全体を振り返ると、本号を貫いているのは「作業の多様性と包摂性をどう受けとめるか」という問題意識である。健康や効率を重視するだけでなく、脆弱性や逸脱、さらには文化的・宗教的実践 (Hendricks et al., 2022) までも「作業」として認める姿勢は、作業科学が成熟の段階に差しかかっていることを示しているように思われる。同時に、こうした知見を社会的実装や政策の領域にどう接続するかという課題は残されており、今後の議論が期待される。

Journal of Occupational Science 第30巻第4号は、作業科学の現在地を示すとともに、これからどの方向へ進むべきかを問いかけているように感じられる。私自身も読み進めながら、日々の研究や教育の場面で作業をどう捉え直せるのかを考えさせられた。読者にとっても、この号は単なる知識の集積ではなく、それぞれの立場で実践や思索を深める手がかりになるだろう。

高島理沙 (北海道大学大学院保健科学研究院)

### 文献 (引用順)

Josephsson, S. (2023). To act in front of the stories: Narrative interpretation as a resource to move from what to how. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 539–545.

Whiteford, G. E. (2023a). Towards salience and solidarity: The importance of epistemic development in occupational science, occupational therapy, and the relationship between them. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 546–559.

Whiteford, G. E. (2023b). Forbidden fruit: An exploration of meaning construction of tobacco smoking of people living with

- Chronic Obstructive Pulmonary Disease (COPD). *Journal of Occupational Science*, 30(4), 560–574.
- Taylor, E. (2023). Beyond 'bad' behaviors: A call for occupational scientists to rethink autism. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 575–590.
- de Jongh, A., & Martin, C. (2023). Understanding the occupational impact of waiting using occupational science concepts. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 607–616.
- van der Veen, R. D., Josephsson, S., & Satink, T. (2023). The experience of sleep: A descriptive phenomenological study of Dutch adults. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 617–633.
- Karen, K. E., & Evetts, C. L. (2023). Everyday aesthetics from an occupational perspective. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 634–646.
- von Kürthy, H., Aranda, K., Sadlo, G., & Stew, G. (2023). Embroidering as a transformative occupation. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 647–660.
- Drotsky, L., Gretschel, P., & Sunday, A. (2023). “Doing together”: Mothers use co-occupation to scaffold the occupational engagement of their children with fetal alcohol spectrum disorder. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 591–606.
- Hendricks, F., Galvaan, R., & al-Ninowy, S. M. bin Y. (2022). Tensions in describing Muslim religious practices: Insights generated from an Islamic monotheist perspective. *Journal of Occupational Science*, 30(4), 673–683.